



京都市文化観光資源保護財団

会報

No.49



もくじ

- 京のよさをまもって(12)「大原」 梶土井志ば瀬本舗社長
古い寺に住んで(26) 法觀寺住職
京のみちを歩く(9) 「三条通界隈」
目で見る京の文化財(19) 「京の史跡」
寄稿「京都学生観光連盟の活動」 京都学生観光連盟委員長
わたしと京の文化財(16) 「西行庵の歴史と保存」
西行庵庵主
京の伝統行事芸能(12) 「剣鉾と祭」

- 土井清一郎 P 4
浅野 全雄 P 6
P 7
P 8
松田 信和 P 10
花輪 宗恵 P 11
渡辺 修三 P 14

会報題字 理事長 佐伯 勇
表紙 蛇塚古墳

会報
No.49 62. 10. 1

編集・発行
財団 法人 京都市文化観光資源保護財団
京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内
〒606 電話 075-752-0235 (代)

**募金にご協力いただき
ありがとうございました**

寄付者芳名録（敬称略）62.4.1～62.8.31

一法人及び団体の部

〔特別会員〕

※安田多七株式会社 <2,500万円>
※住友生命保険相互会社 <650万円>
※宝酒造株式会社 <600万円>
※山一證券株式会社 <300万円>
※京都タワー株式会社 <150万円>
ダイキン工業株式会社 <100万円>
※厚木市立睦合中学校生徒会 <66万百4拾6円>

〔普通会員〕

※株式会社灰孝本店 <41万円>
※京阪コンクリート工業株式会社 <40万円>
※株式会社鶴屋吉信 <32万円>
※織悦株式会社 <26万円>
※山勝織物株式会社 <25万円>
※厚木市立厚木中学校3年生 <22万3千7百3拾2円>
※第一衣料株式会社 <21万円>
※旅館松葉亭 <20万円>
※株式会社熊倉工務店 <11万円>
※厚木市立小鮎中学校生徒会 <10万3千6百9拾1円>
〔賛助員〕
※ヤマカワ株式会社 <9万3千円>
※厚木市立玉川中学校生徒会 <8万拾3円>
※株式会社丸美屋 <6万円>
※山田織維株式会社 <4万8千円>
※トクデン株式会社 <3万5千円>
※有限会社佐々木勉強堂東店 <2万7千円>

一個人の部

〔特別会員〕
※田中長兵衛 <60万円>
※高橋政幸 <41万円>
※親谷貞治 <34万5千円>
※今井雅治 <21万円>
※高島国男 <20万円>
※丸山未樟 <18万6千円>
※岡本保敏 <17万7千円>
※大槻正夫 <17万円>
※田中正行 <16万1千5百円>
※奈良博子 <16万円>
※竹内キミ子 <14万5千円>
※竹内孫兵衛 <14万円>
※山崎章 <14万円>
※高橋一男 <13万5千円>
※今井栄一 <13万円>
※上野山志津子 <13万円>
※柴田二郎 <12万円>
※弘津友三郎 <12万円>
※中島次郎 <11万円>

※原山喜代雄 <10万5千円>
※田尻島輝雄 <10万5百円>
※村田陶苑 <10万円>
〔普通会員〕
※三原慶三郎 <9万8千円>
※赤松ふみ <9万円>
※上田長雄 <9万円>
※神崎順一 <8万7千円>
※佐藤昭三治 <8万円>
※大嶋真治 <7万5千円>
※戸田紀一 <7万1千円>
※岩佐静子 <7万円>
※安田孝夫 <6万4千円>
※辨官弘 <5万8千円>
※山田省曹 <5万5千円>
※矢野晃三子 <5万4千5百円>
※岩井芳三子 <5万1千円>
※平野貞昭 <4万9千円>
※奥田芳一 <4万6千円>
※今井憲一 <4万5千子>
※青木文一 <4万4千円>
※井田喜智郎 <4万2千円>
※大野健三 <4万2千円>
※上田真一 <4万円>
※遠藤伊之助 <4万円>
※宮下満喜 <4万円>
※金井利夫 <3万6千円>
※田井四郎 <3万6千円>
※小田嶋弘助 <3万5千円>
※駒井桂之 <3万5千円>
※松嶋芳子 <3万5千円>
※大鋸嘉彦 <3万4千円>
※平野和彦 <3万2千5百円>
※西原寿子 <3万2千円>
※前田ふみ <3万2千円>
※松岡省三 <3万2千円>
※山田順三 <2万8千円>
※小田嶋綾 <2万5千円>
※野村鉄子 <2万4千5百円>
※小松好子 <2万4千円>
※盛田准子 <2万4千円>
※寺嶋瑛子 <2万3千円>
※梶村ふみ <2万1千円>
※波多野延三 <2万円>
〔賛助員〕
※渡辺きく實子 <1万9千円>
※西田實子 <1万8千円>
※森田俊子 <1万2千円>
※内山義一 <1万1千円>
※山本もと <1万円>
※渡辺澤子 <1万円>
※芳田愛子 <9千円>
※林寛子 <8千円>
※余田善三郎 <8千円>
※高沢きみ <5千円>

※山本春美 <5千円>
※小笠原澄江 <4千円>
※奥野貴雄 <4千円>
※山崎一茂 <4千円>
※石井清子 <3千円>
※石田裕 <3千円>
※小堺きよ子 <3千円>
※坂田和子 <2千2百円>
小林剛 <2千円>
竹林はま <2千円>
今井春美 <1千円>
菅野千代枝 <1千円>
蜂谷直孝 <1千円>

〔※印は、追加寄付の篤志者、寄付金額は累計額。なお、昭和62年8月31日以降の寄付者の方につきましては紙面の都合により今後順次紹介させていただきますので御了承下さい。〕

**厚木市の修学旅行生から
今年も善意の寄付届けられる**

「京都の文化財
をまもるために役
立てて下さい。」と

去る6月修学旅行
で京都を訪れた神
奈川県厚木市立の
中学校4校から相

次いで当財団へ寄付金が寄せられました。厚木
市の中学生のみなさんからは、昭和48年以来毎
年修学旅行の際に届けられており、これまでに
8中学校から累計にして121万3千9百余円に
及ぶ寄付金が寄せられています。



生徒代表のみなさんから井上
当財団専務理事に寄付金が手
渡された。

京都の文化財をまもる

5億円募金にご協力を

一京のよさをまもるこの運動への参加を

あなたのまわりの方々にも呼びかけて下さい

当財団では、現在5億円募金運動を全国的
にすすめています。

京の四大行事をはじめとする京都の文化財
をまもる5億円募金を達成するために皆様も
金額の多少にかかわらずご協力をお願ひいた
します。

○基金にご協力いただきます場合は、同
封させていただいております納付書に
よりご送金下さい。

募金その他についてのお問い合わせは、
当財団事務局まで

(075)752-0235(代)



大 原

土井清一郎

洛北大原は、京都に残された田舎らしさと温かい人間関係とが調和しながら、長い歴史の中に生きてきた地域でございます。

京都からおいでになりますと美しい山並みが皆様を包み込むように目の前にせまり、高野川の清流が見えかくれし四季それぞれの色合でおそれわれています。や、あって盆地が開け人の住むところが見えますとそこが大原の里です。

この里は、三千院、寂光院のほか16のお寺が点在し、自然の景観と相まって訪れる人々の心を慰やしてくれるところだと思っております。京都のまち中からご覧になりますと、自然のままに現在のような姿になったように見えるでしょうが、実はそうではなくここに住む人々が風



四季おりおりの自然景観が美しい大原と、ゆるいテンポでしみじみと真



大原には、約16カ寺の寺院があり、自然と調和し訪れる人々の心を和ませてくれる（写真：寂光院）

土に感化され無意識の内に美観を守り、山林を守り家屋敷を守り田畠を守り、そして年に一回「総普請」といって、住民総出で道路や溝を清掃し、生活そのものが自然を守ることにつながっております。この守るというパターンの中から、たくさんの民俗風習や芸能が育くまれ、そのうち特に代表的な芸能が、京都市無形民俗文化財に登録されました八朔踊です。大原の氏神、江文神社をめぐる宮座の行事で八朔の夜（現在

は毎年9月1日）宮座の青年たちがカスリの着物にスゲ笠をかぶり音頭をとりかこみ輪になつて踊るものです。

北は黄に南は青き東白
西紅いの染色は
山より落つる一滴
流れも清き紙屋川
げにも名高き御社の
北野平野の夕景色
心も勇み気も晴れて
楽しみ嬉し諸越の……

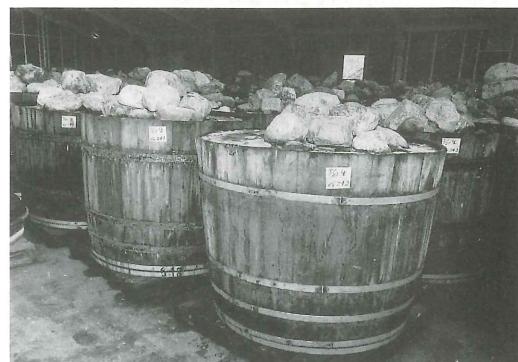
暗がりの木々の谷間にこだますると大原の夏も終りとなります。他にもたくさんの民話、芸能があり、保存会をつくりその保存にも力を入れているところです。

又、大原の伝統産業として紫蘇漬がありますが、最近では伝統的な作り方ではなく、しその香料やしその色素を使った本来の品とは別ものがしば漬と称して販売され、これが人気を呼び従来からの塩だけで自然に熟成したものが、減産をしなければならない状況で、大原では10年前に比較して半減したように思います。あれやこれやで守ることで精一杯のこの頃の大原でございます。

狭い山あいの大原の里は、私どものちからだけでは守れるものではございません。来訪される方々、大原を愛して下さる皆様の心のふるさと私は日本のふるさと大原を守る一員でありそして自分の生涯をかけていることに生甲斐を感じております。

皆様どうか大原へお越し下さいお待ちいたしております。

（株式会社土井志ば漬本舗社長）



大原の名産品「しば漬」その昔、建礼門院の大原御幸の際、献上したことからその名が由来したという。（写真上：しば漬の原料の紫蘇 下：木樽を使い熟成させる）



一大原八朔踊—毎年9月1日におこなわれる大原江文神社の宮座行事で、楽器を一切用いず音頭にあわせてかすりの着物にすげ笠をかぶった青年たちが輪になって踊る。



古い寺に住んで (26)

浅野 全雄

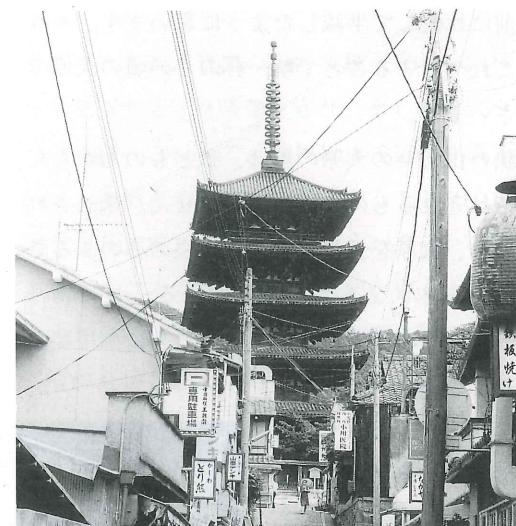
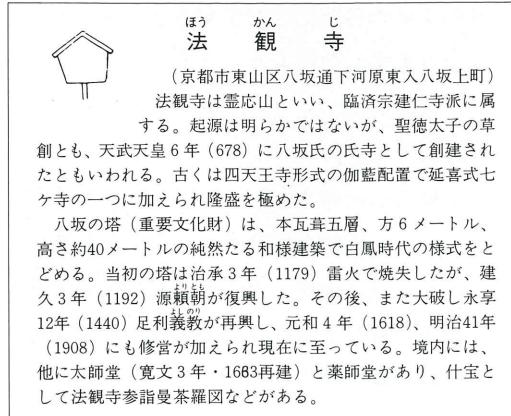
昭和55年2月18日、先住春翁和尚遷化、遺偈に曰く「吟花嘯月、七十余年未後一句大千廓然」師は茶道、花道に親しみながら数十年に亘り境内整備に尽力されました。晋山当時の法觀寺は、大層荒廃していたと聞かされております。晩年に至りまして文化財の防火のため自動火災報知設備、ドレンチャー、ハロゲン消火設備等の防火施設の完備に努められました。

師の遷化後、私が住職の拝命を受けて着任した次第ですが、僅か四百坪足らずの境内を見渡せば、今後文化財を守っていかなければならぬ種々の問題が山積みの状態でした。檀家もなく収入の少ないこの寺で、如何に資金繰りをして文化財の修理をしていこうかと思い悩んでおりました。

幸い、当山の総代の方より文化財修理に関する補助制度の申請方法、文化財保護基金への申



太師堂（手前）と薬師堂（ともに京都市指定文化財）



法觀寺五重塔（八坂の塔・重文）

込、銀行からの借入等御指導を賜わり着任早々修理工事ができる運びとなりました。倒れかかった表塀の修復、五重塔内部修理では、ジグソーパズルのようになった紙本壁画の表装、天井四方柱に描かれた文様の剥落止め、屋根が落ちそうな太子堂の修理、境内には中根金作先生による須弥山の庭の新設等々、法觀寺の化粧直しも僅かながら美しく出来あがりました。

而して、布教活動の一端として文化財特別拝観の実施を皮切りに、以来当寺も拝観寺院とし

て出発する事になり、同時に京都十三仏靈場の十一番阿闍梨如來の靈場としても発足いたしました。

先住七回忌も過ぎた今日、微力な私には、なかなかお参りの方を多数ひき寄せる迄には至りませんが、益々精進致し布教、文化財保護に努力していく所存です。

（法觀寺住職）

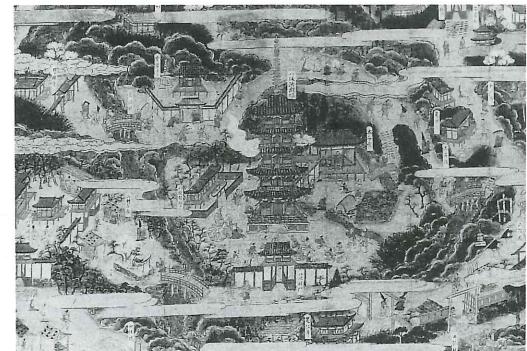
京のみちを歩く（9）

《 三条通界隈 》

「まる・たけ・夷・二・押・御池・姉・三・六角・たこ・錦・四・綾・仏・嵩・松・万・五条」

これは、碁盤の目状に走る京の通りのうち東西の通りを北から順に走る京のわらべ唄の一部であり、京都に生れ育った者はいつの間にか覚えてしまっている一節である。覚えにくい通りの名を簡単な唄によって自然に頭に入れるという一種の生活の智恵である。

烏丸通から六角通を東に入ると北側に六角堂がある。池坊と呼ばれる本坊は華道家元で知られる。境内には、昔この地が京都の中心であったといわれる要石があり、人体にたとえて「へそ石」と呼ばれている。境内をぬけて三条通を東へ行くとゴシック風の建物が、一種独特の雰囲気をかもし出している。明治時代の洋風建築中京郵便局と旧日本銀行京都支店である。明治、大正期の洋風建築や明治の商家が並ぶ三条通を東へ通り過ぎ、寺町を右に折れると三筋目が錦小路である。俗に錦市場と呼ばれ寺町から東洞院まで両側に食料品店が軒を連ね、京都の庶民



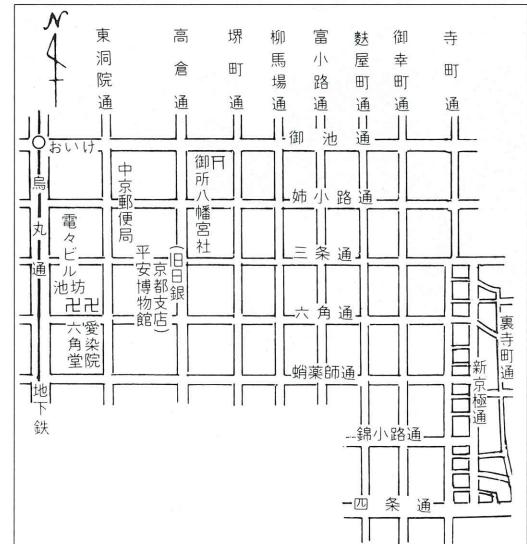
法觀寺參詣曼荼羅図部分（重文）

の台所として賑わっている。

—「京のみちを歩く」京都市文化観光局観光課発行より—



明治時代の面影が残る「中京郵便局旧庁舎」と「へそ石」



京の史跡

京都市内には、歴史的な遺跡を示すいしぶみや駒札が数多く立てられており、歴史上に残る著名な人物のその当時の出来事や偉業を偲ぶことができます。

今回の目で見る京の文化財は、史跡をテーマに国や京都市の文化財として指定されているものの中から、一部をご紹介いたします。



御土居 京都市上京区馬喰町ほか
天正19年（1591）豊臣秀吉が、洛中と洛外を区分するため東は鴨川、北は鷹ヶ峰、西は紙屋川、南は東寺の広大な範囲に高さ約5mの土堤を築いたもの。現在、北野天満宮付近や鷹ヶ峰などにその一部が残されている。国指定史跡。



伊藤仁斎宅(古義堂)跡並びに書庫 京都市上京区東堀川通出水下ル
江戸初期の漢学者 伊藤仁斎の住宅で、仁斎の学問にちなみ古義堂という。仁斎は、初め朱子学を修めたが後にこれを排して古義学を唱え私塾を開き名を高めた。二階建、土蔵造りの書庫はその当時のものである。国指定史跡。



岩倉具視幽樓旧宅 京都市左京区岩倉上藏町
明治維新に中心的な役割を果した岩倉具視が、文久2年（1862）から5年間この地に蟄居していたもので、その間に大政奉還にむけ密議をこらしたという。現在、当旧宅には岩倉具視の遺品をはじめ明治維新的資料が所蔵されている。国指定史跡。



京都大学構内火葬塚 京都市左京区北白川追分町
京都大学の構内にあり、昭和53年発見されたもので、平安時代後期から鎌倉時代に火葬地を「火葬塚」として祭ったものである。二重の方形溝からなり、外側溝、内側溝とも残存状況が良好でその更に下層には弥生時代の方形周溝墓も発見された。京都市登録史跡。



方向寺石塁及び石塔 京都市東山区茶屋町
方向寺は、豊臣秀吉が天正14年（1586）東大寺の大仏殿にない創建した寺院。石塁は、その当時の遺構で約300mにわたり残っており、秀吉が諸侯に命じて各地から集めた巨石である。国指定史跡。



伏見城石垣 京都市伏見区桃山町伊庭
豊臣秀吉が築いた伏見城の石垣で、昭和52年に発見された。元和9年（1623）伏見城廃城時に解体を免れ、文禄3年（1594）に築かれた石垣の基礎部分と推定され、重さ1～2.5tの花崗石の切石で、墨書も確認された。京都市登録史跡。



蛇塚古墳 京都市右京区太秦面影町



高瀬川一之船入 京都市中京区木屋町通二条下ル
高瀬川は、慶長16年（1611）角倉了似が開いた運河で、ここを運行する高瀬舟の荷物のあげおろしをする船溜所を船入といふ。底が平たく、船首の高い高瀬舟が盛時には百数十艘も行き交い、大阪などから物資を運び入れたという。国指定史跡。



桜原庵寺跡 京都市西京区桜原内垣外町
昭和42年、塔跡を中心に中門、回廊、築地塀跡が発見され、塔跡は一辺5m余りの八角塔であったことが確認された。八角塔を中心とした奈良時代の寺院跡は、全国でも例がなく寺名や沿革が不詳なことから地名をとり桜原庵寺とよばれ、現在史跡公園になっている。国指定史跡。

参考文献
○「京都府文化財図録」（昭和43年）京都府教育委員会発行
○「京都市の文化財（第1集～第4集）」京都市文化観光局文化財保護課発行

「寄稿」

京都学生観光 連盟の活動

松田信和

千年の歴史がいきづく古都京都は、同時に学生のまちでもあります。お寺の隣りに近代的な大学の学舎が建つ様子も京都ならではだと思います。

京都学生観光連盟は、学生だけで運営されているガイド団体で昭和24年に京都市の文化観光局がガイドの統一、質の向上のため観光案内を学生に依頼したのが起りです。

学生だけとはいっても事務所として京都市観光案内所をお借りし、三大祭の観覧席や修学院離宮特別参観の案内のお手伝いもさせていただいている。活動の中心は、春と秋の観光シーズンで地方からの修学旅行のバスに乗り込み、



年間およそ3,700万人の観光客が訪れる京都。そのなかで昭和24年の発足以来、観光京都の裏方として活動を続けている京都学生観光連盟。一味違ったその観光案内ぶりが好評を得ている。

京都や奈良を案内しています。小学生、中学生が相手なので何か先生にでもなった気分でマイクを持つことができます。

シーズンオフの夏と冬は、京の夏の旅、冬の旅でいくつかの史跡の案内を担当させていただいている。春や秋のシーズン以上に自らのガイドを充実させる大切な時であり、蒸し暑い夏、底冷え厳しい冬にお客様に「来て良かった」と満足いただけるような案内を心掛けています。京都にはもちろんプロのガイドの方々がいらっしゃいますから、学生のガイドとして一味違う案内をめざしたいと思っています。

普通の学生ではできない貴重な経験をさせていただいているので、京都についての表面的知識はあるつもりです。ちょうど京都に生まれ育った人と観光で京都を訪れる人の中間の立場で、京都を見るができるのかも知れません。

東京、大阪と京都を比べることがよくあります、二つの都市が大きく変貌しているのに対

して京都というまちは、千年の昔から自然は同じ姿を見せ、町並や人は時代に沿ってゆっくりと変わっていくところ、そんな感じをもっています。

(京都学生観光連盟委員長)



京都や奈良を案内しています。小学生、中学生が相手なので何か先生にでもなった気分でマイクを持つことができます。

シーズンオフの夏と冬は、京の夏の旅、冬の旅でいくつかの史跡の案内を担当させていただいている。春や秋のシーズン以上に自らのガイドを充実させる大切な時であり、蒸し暑い夏、底冷え厳しい冬にお客様に「来て良かった」と満足いただけるような案内を心掛けています。

京都にはもちろんプロのガイドの方々がいらっしゃいますから、学生のガイドとして一味違う案内をめざしたいと思っています。

普通の学生ではできない貴重な経験をさせていただいているので、京都についての表面的知識はあるつもりです。ちょうど京都に生まれ育った人と観光で京都を訪れる人の中間の立場で、京都を見るができるのかも知れません。

東京、大阪と京都を比べることがよくあります、二つの都市が大きく変貌しているのに対

して京都というまちは、千年の昔から自然は同じ姿を見せ、町並や人は時代に沿ってゆっくりと変わっていくところ、そんな感じをもっています。

(京都学生観光連盟委員長)

年間およそ3,700万人の観光客が訪れる京都。そのなかで昭和24年の発足以来、観光京都の裏方として活動を続けている京都学生観光連盟。一味違ったその観光案内ぶりが好評を得ている。

わたしと京の文化財(16)

西行庵の 歴史と保存

花輪宗恵



円山公園の噴水の前を通り過ぎ東大谷本廟の参道をよぎると左手に円山野外音楽堂、これを取り囲む様に急な登り坂は更に東へ。この辺は古くから真葛ヶ原と呼ばれ、葛や萩が生い茂りその風雅な趣は文人墨客が好んで散策した名勝の地であったようです。

今から凡八百年前、歌僧西行はこの地に庵を結びました。三百年後頓阿上人が西行を慕ってここに住し、芭蕉も同じ思いで隣に庵を結んでおります。

明治に入り当時の廃仏毀釈により廃寺となり、荒廃した西行庵を再興されたのが宮田小文法師です。法師は、福井県鯖江の人、11才で京の紅問屋に奉公しつつ学問を好み、長じては和歌や画を能くし茶の道を極めた風流人でした。京洛



西行庵の母屋とたたずまい



茶室皆如庵

の文人墨客にも交わりが深く西行庵再興に際し、これら風雅を愛する人々812名が浄財を寄せたと記されています。中でも富岡鉄斎とは特に親交深く西行庵再興の勧進文は小文の草案によるものを鉄斎自らこれを認めています。

母屋には、大徳寺塔頭真珠庵下舎を鷹ヶ峰より移し、離れの茶室皆如庵は衣笠の久我家別邸より移築されました。桃山時代秀吉の将宇喜多秀家の息女が久我大納言家へ輿入の際、持参したと伝えられ、趣き深い名茶室の一つに数えられています。また、当時は西向きに建っていた

西行堂をその位置に再建、門も新しく建て替えて現在の西行庵が再興されました。明治26年の事です。以来霜雪九十年、この皆如庵も老朽甚だしく末永く保つ為には根本的な修理が必要となり、昭和57年末より59年3月迄半解体の大修復が行なわれました。綿密な事前調査と共に当時桂離宮を修復されていたのと全く同じ緻密精巧な技術がここにも生かされ見て復元がなったのです。明63年1月には、母屋の茅葺と瓦屋根全体

の葺替工事が予定されております。

先代より後を継ぎ、絶えず修理に追われ続けてきた様な11年間でしたが、今改めて先々代再興者の御苦労、それを維持すべく生活を切り詰めても保存の為に生涯をかけた先代の労苦がしみじみと忍ばれる昨今です。そしてこの様な修

理に際して保護財団の補助を頂けますことは誠に有難く感謝に絶えません。未だ微力な私ですがこの重責を噛締めて貴重な文化遺産を後世に守り伝うべく精進努力を重ねて参る所存です。

(西行庵庵主)

京の主な年中行事（10月～12月）

10月

1～5日 瑞饋祭 北野天満宮

[1日 午前9時 神幸祭]
[4日 午前10時 還幸祭]

1～10日 御香宮神幸祭 御香宮神社

[1・9日 午後6時30分 花傘縁參宮]
[7時30分 花傘縁參宮]
[9日 午後4時 宵宮祭]
[10日 午後6時30分 神輿宮入]
[7時30分 神輿宮入]

6・7日 観月の夕べ 大覺寺
(午後5時～9時)

7日 せんそく封じへちま加持 赤山禪院
(午前8時～午後4時)

7日 明月祭 下鴨神社
(午後6時～8時30分)

7日 北白川高盛御供 北白川天神宮
(午前7時30分)

8・9日 今宮神社例大祭 今宮神社
[8日 午後7時 前夜祭]
[9日 午前10時 例大祭]

9日 繁昌大国秋祭 (午後1時) 下鴨神社

9～11日 壬生大念仏狂言秋季公演 壬生寺
(午後1時～5時30分)

9・10・15日 粟田神社大祭 粟田神社
[9日 午後6時 夜渡神事]
[10日 午後1時 神幸祭]
[15日 午前11時 大祭]

9・11日 春日祭 春日神社
[10日 午後5時 前日祭]
[11日 午後2時 神幸祭]

10日 秋季金比羅大祭 安井金比羅宮
(午前10時)

10日 八瀬赦免地踊 八瀬秋元神社
(午前10時)

10日 六孫王神社例祭 (午後1時) 六孫王神社

10・11日 講員大祭 (午後1時) 伏見稻荷大社

11日 二十五菩薩お練供養法会 即成院
(午後1時)

14日 今宮社神幸祭 (午前10時) 吉田神社末社

14～16日 引声阿弥陀経会 真如堂
(午前9時～10時)

16日 新日吉神宮例大祭 新日吉神宮
(午前10時)

16・17日 日向大神宮例大祭 日向大神宮
[16日 午後2時 外宮大祭]
[17日 " 内宮 "

19～21日 二十日ゑびす大祭 恵美須神社

[19日 午後8時 宵ゑびす祭]
[20日 午後2時 空びす講大祭]
[21日 午後8時 のこり福]

20日 城南宮神幸祭 (午前9時) 城南宮

22日 時代祭 (正午御所出発) 平安神宮

22日 鞍馬火祭 (午後5時30分～) 由岐神社

23日 岩倉火祭 (午前2時) 岩倉石座神社

25日 拔穂祭 (午前11時) 伏見稻荷大社

25日 嵐嶽大念仏狂言秋季公演 清涼寺

(午後1時～4時30分)

29日 余香祭 (午後2時) 北野天満宮

11月

1日 玄子祭 (午後5時) 護王神社

1～30日 七五三詣り 市内各神社

2日 上卯大祭 (午前11時) 松尾大社

3日 狸谷不動院秋季大祭 狸谷不動院
(午後12時30分)

3日 曲水の宴 (午後2時) 城南宮

3～23日 秋の業平塩鼈まつり 十輪寺
(午後1時)

5～15日 十日十夜別時念仏会 真如堂

(5～14日 午後6時～7時 十夜念仏)

8日 火焚祭 (午後1時) 伏見稻荷大社
嵐山もみじ祭 嵐山渡月橋付近
[午前10時30分～正午]
[午後1時30分～3時30分]

10日 大和平敬神祭 (正午) 建勲神社

14日 火焚祭 (午後3時) 新日吉神宮

15日 法住寺大護摩供 (正午～) 法住寺

16日 火焚祭 (午後2時) 穂びす神社

23日 火焚祭 (午後1時) 車折神社

23日 もみじ祭 (午後2時) 地主神社

23日 筆供養 (午後2時) 東福寺正覚庵

新熊野神社秋の大祭 新熊野神社
(午前10時30分～)

26日 御茶壺奉獻祭 北野天満宮

(午前9時30分～)

12月

1日 献茶祭 (午前10時30分) 北野天満宮

交通安全の御祈禱並びに 須賀神社

大祓の神事 (午後2時) 終い大國祭 (午後1時) 地主神社

7・8日 大根だきと成道会法要 千本釈迦堂

[午前10時～午後4時 大根だき]
[8日 午前10時 成道会法要]

8日 針供養 (午後1時) 法輪寺

8日 針供養 (午後1時) 針神社

9・10日 鳴滝の大根だき 了徳寺

(午前9時～午後4時)

10日 終い金比羅 安井金比羅宮

13日～ 大福梅 北野天満宮

(午前9時～午後4時)

13～31日 かくれ念仏 (午後4時頃) 六波羅蜜寺

義士まつり 山科保勝会

(午前10時 毘沙門堂出発)

14日 義士会法要 (午前11時) 法住寺

21日 終い弘法 東寺

25日 終い天神 北野天満宮

御身拭式 (午後1時30分) 知恩院

おけら詣り 八坂神社

(午後7時30分～おけら火授与)

*都合により行事日程が変更される場合があります。



回雅楽舞樂公演

京都古楽保存会主催による第14回定期公演が開催されます。

日 時：10月5日(月) 午後7時
場 所：京都会館第2ホール
一入場無料—

回京都御所秋の一般公開

日 時：10月28日(水)～11月1日(日)
午前9時～午後3時

※この期間中は、一切の手続きなしで参観ができます。



回第23回未公開文化財特別拝観

期 間：11月1日(日)～11月10日(火)
午前9時～午後4時

拝観料：1ヶ寺 600円

主 催：京都古文化保存協会

<お問い合わせ (075)561-1795>

寺院名	主な文化財	備考
大徳寺	真珠庵 方丈襖絵・庭園	1日～8日公開 所在地北区紫野大徳寺町
	芳春院 本堂・楼閣山水庭園	"
	黄梅院 本堂・襖絵・庭園・茶室	"
	聚光院 方丈襖絵・茶室・庭園	"
靈鑑寺	書院襖絵・人形・庭園	左京区鹿ヶ谷御所ノ段町
法然寺	殿舎・本堂・襖絵	1日～7日公開
建仁寺	本坊 方丈・茶室・庭園	東山区大和大路通四通下ル
	両足院 襖絵・茶室・庭園	"
久昌院	方丈襖絵・茶室・庭園	"
高台寺	靈屋・開山堂・茶室・庭園	東山区下河原通八坂鳥居前下ル
円徳院	襖絵・庭園	"
妙法院	大書院・庫裏・庭園	東山区妙法院前側町

剣鉾と祭

京都では、10月になると秋の祭礼が各神社でおこなわれます。なかでも、古く平安時代の御靈会の鉾に由来するといわれる剣鉾が、祭の神幸列に神輿とともに巡回して、彩りをそえています。

剣鉾は、もともと悪霊を鎮めるための呪術的な祭具で、その形態は長い棹の上に金渡金された剣（鉾先）を組込み、その横に金属板を透かした飾と神額をつけ、剣の根元に鈴をつり、吹散または見送りを垂らしたもので、その重さは数十キロ、その長さ約6～7メートルにもなります。

又、剣鉾を差す人のことを鉾差しといい、一人前に差せるまでには数年かかるといわれ、高度な技術と力を必要とします。

京都市文化財保護課の調査によると、現在京都市内の約34カ所の神社等におよそ180本に及ぶ剣鉾があることが確認され、江戸時代のものも数多く残されていることがわかりました。現在、剣鉾のそのほとんどが神社の氏子町内で保存されていますがなかには美術工芸品として価値の高いものがあるといわれています。

◆剣鉾の出る主な秋の行事

- 10月1日 北野天満宮 神幸祭（午後1時）
- 10日 木嶋座天照御魂神社 例祭
（午前9時30分）
- 10日 北白川天神宮 神幸祭（午後1時）



飾られる剣鉾と吹散り（岡崎神社）

- | | | |
|-----|------|------------|
| 10日 | 粟田神社 | 神幸祭（午後1時） |
| 11日 | 春日神社 | 春日祭（午前10時） |
| 16日 | 岡崎神社 | 例祭 |
| 18日 | 城南宮 | 神幸祭 |
| 22日 | 由岐神社 | 鞍馬火祭 |



竹虎鉾（粟田神社）



菖蒲鉾（岡崎神社）



一番鉾（春日神社）



扇鉾（今宮神社）

剣鉾と 鉾差し

渡辺修三

今日のように情報文化の多様化が進むなかで今もなお昔ながらの伝統を今日の京都の祭の中にみいだし、守り継承しているのが我々鉾差し仲間なのです。

京都では、5月と10月には神社で祭が行なわれますが、その祭のなかで主役をつとめるのが剣鉾と神輿です。私は、約40年間剣鉾の鉾差しをつとめ今なお剣鉾を差している現役です。

さて、私が在住するここ洛北一乗寺の祭について述べますと、毎年5月5日の子供の日に八大神社において祭礼が行なわれます。菊鉾、龍鉾、柏鉾の三本の剣鉾があり、その剣鉾を鉦と太鼓によって鉾差しが給仕をして厳かに神祭が行なわれるのです。

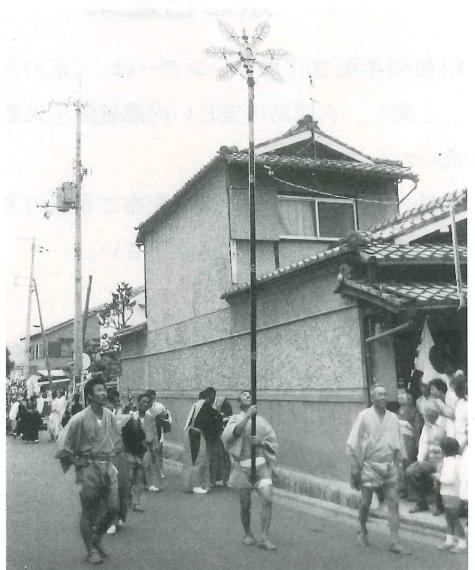
祭の行われる約一週間前から毎夜、神社の境内において鉾差しの練習をします。剣鉾を差すには、腰の前に下げた皮袋に棹の石突を差して、両手で支え、腰の力で剣を前後に振り、棹を振ることによって左右に鈴を当て、右足を前に出し腰をおとして左足を蹴って歩くのです。

祭の神幸列は、剣鉾に続き神輿の巡回が行なわれます。各町内で剣鉾が次々と立てられ、ねり歩く姿は優雅なもので見る人々を祭の中へ陶酔させるのです。そのような呪術的な魅力のある剣鉾を操ることが出来るのが我々鉾差しの誇りです。

しかし、我々にも悩みがあります。40年前には40人程の人が鉾を差していたのですが、現在

では10人そこそこの人がいるだけです。もっと地元の若者が地域の伝統を受け継ぎ、次の世代への橋渡しとなってもらえることを切に望むものです。

（京都市左京区一乗寺在住）



まつりの巡回の先頭をゆく剣鉾。剣鉾を立て、ねり歩く姿は優雅なものである。（写真中央の鉾差しは筆者。八大神社の祭礼より）



荷鉾の形式がとられる剣鉾。剣鉾の棹を短かくし、枠造にして祇園祭の昇山のように豪華な染織品を飾り付ける（写真：下御靈神社の祭礼より）

昭和63年版

文化財カレンダーのお知らせ

テーマ “京の古建築”

昭和63年版文化財カレンダーは、「京の古建築」と題し、古建築の美しい内部装飾を掲載し、作成いたします。

会員の皆様方でカレンダー配布ご希望の方は、下記の要領によりお申し込み下さい。

■掲載内容 妙心寺法堂（重文）

法界寺阿弥陀堂（国宝）

醍醐寺五重塔（国宝）

東福寺三門（国宝）

教王護国寺金堂（国宝）

高台寺靈屋（重文）

■規 格 B3 サイズ・7枚もの（表紙含む） 6色刷カラー

■申込方法 文化財カレンダー申込及び住所、 氏名（法人の場合は、法人名と代表者名）を記入のうえ、切手350円 分（郵送料）を同封し、封書によ りお申し込み下さい。

■申込期限 11月30日まで

■申込先 〒606 京都市左京区岡崎最勝寺町 京都会館内

京都市文化観光資源保護財団宛

㊟○申し込み資格は、当財団会員に限ります。

○申し込み部数は、1人につき1部とします。

○なお、申し込み多数の場合は、制限するこ
とがありますのでご了承下さい。

○カレンダーの発送は、12月上旬の予定です。

第49回 文化財特別参観のご案内

大倉記念館

今回は、京都市指定有形民俗文化財である伏見の酒造用具や酒蔵などの見学をおこないます。

回参観日時 昭和62年12月5日（土）
午後2時（参観時間約2時間）

回対象者 財団募金協力者（会員）とその家
族1名（計2名まで）

回申込方法 住所・氏名・年令を記入し、返信
用切手60円分を同封の上、封書に
よりお申し込み下さい。

回申込先 〒606 京都市左京区岡崎最勝寺町
京都会館内
京都市文化観光資源保護財団宛

回参加費不用

※お問い合わせは、財団事務局まで。なお、参
加ご希望が多い場合は、制限することがあり
ます。

編 集 後 記



今回は、社寺の文化財とは趣きの異なる史跡
を紹介しました。紹介するにあたり、それぞれ
の史跡を訪ねましたが、歴史を感じさせるもの
ばかりで驚かされます。蛇塚古墳の石室にみる
古墳時代の土木技術の高さ、京都の洛中をとり
囲んだという秀吉の築いたお土居など歴史の宝
庫といわれる京都ならではの史跡が、今なお数
多く残されています。皆様も機会があれば、こ
れらの史跡を訪ねられてみてはいかがでしょうか。

— いま一度考えてみよう 人権の重み —